



埋文だより

第43号

平成19年 2月16日発行

国内最古の落とし穴を発見!

本年度、発掘調査を行った大津保畑遺跡（中種子町坂井本村）から旧石器時代の落とし穴が12基発見されました。始良Tn火山灰（約2万4千年前）より、さらに下位の種火山灰層（約3万年前）の下から発見されたので、国内最古と考えられています。1月20日には現地説明会を開催し、約400名の見学者が訪れました。



落とし穴の配置



落とし穴の断面



現地説明会の様子

目次

- ・国内最古の落とし穴を発見! 1
- ・平成18年度 センター業務成果の速報 2
- ・効率的な報告書作成方法を研修 / 新たなセンターの活用方法
テレビ会議で埋蔵文化財を学ぶ! 4
- ・シリーズ埋文豆知識 落とし穴ってなあに? 5
- ・古墳時代初頭の農具が見つかる!! / 現地説明会を県民週間に実施..... 6

当センターは、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで見学できます。お近くにお越しの際は、ぜひお立ち寄りください。
なお、センターのホームページは、上野原縄文の森(<http://www.jomon-no-mori.jp>)からお入りください。

平成18年度 センター業務成果の速報

～発掘調査・整理作業・報告書作成の主な調査成果を紹介～

本年度、当センターでは22遺跡の発掘調査と18遺跡の整理作業（3頁参照）、20遺跡の報告書作成を行いました。

そこで、これらの中から主な調査成果を紹介します。

発掘調査
報告書作成



古墳時代の住居跡

～向井原遺跡（さつま町）～

古墳時代の竪穴住居跡が4軒発見されました。床が二段（ベッド状遺構）になった住居跡からは、完全な埴形土器、朱色に塗られた高坏などが出土しました。



電子顕微鏡で見たベンガラ粒子

赤色のなぞ

～上水流遺跡（南さつま市）～

縄文時代晩期の鉢形をした土器に塗られていた赤い顔料を分析した結果、表はベンガラ、裏は水銀朱であることが判明しました。2種類の顔料が使われているのは珍しく、県内では榎崎B遺跡（鹿屋市）について2例目です。

墓地に続き集落を発見！

～堂園遺跡B地点（川辺町）～

A地点の弥生から古墳時代にかけての土坑墓群に続き、B地点で25軒の住居跡が見つかりました。集落と墓域の位置関係を知る上で重要な遺跡と考えられています。



縄文時代の集石

～根木原B遺跡（鹿屋市）～

この集石は、桜島の爆発によってできた火山灰層（薩摩火山灰層約11,500年前）の直下から発見されました。石蒸し料理に使ったと考えられています。

埋設土器 ~ 農業開発総合センター遺跡群(南さつま市) ~

諏訪牟田遺跡など3つの遺跡で縄文時代晩期の埋設された土器が5個発見されました。これらの土器の中には、底を打ち欠いた土器もあり、このことから、葬送に使われたと考えられます。

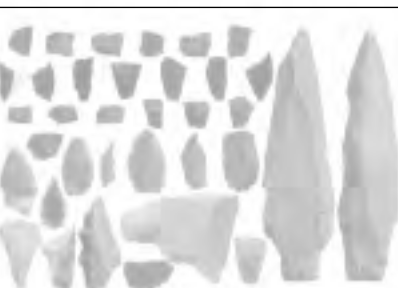


九州西北部との交流

~ 建山遺跡(曾於市) ~

旧石器時代の細石刃などが見つかりました。石器に用いられた黒曜石の中には、九州西北部産のものが含まれており、広く交流が行われていたことがわかりました。

細石核



縄文時代の編み物を再現

~ 芝原遺跡(南さつま市) ~

縄文時代後期の土器の底についていた凹凸を樹脂で型取りし、それに着色を行いました。すると、土器を作るときに使われた編み物の文様がくっきりと現れました。



旧石器時代の石器が30万点!

~ 仁田尾中A・B遺跡(鹿児島市) ~

旧石器時代の終わりから縄文時代のはじめにかけての石器(ナイフ形石器や石鏃等)約30万点が出土し、九州で最大級の発見となりました。

古代の建物跡

~ 高古塚遺跡(曾於市) ~

穴を掘って柱を建てた古代の建物跡で、中央に火を焚いた跡(炉跡)が見つかりました。また、柱跡の配置から建て替えが行われたこともわかりました。



整理作業を行った遺跡



榕城跡	(いちき串木野市)	頭無迫田遺跡	(南さつま市)
仁田尾遺跡	(鹿児島市)	宗円堀遺跡	(")
根木原C遺跡	(鹿屋市)	諏訪脇遺跡	(")
根木原D遺跡	(")	芝原遺跡	(")
前畑遺跡	(")	持躰松遺跡	(")
宮ノ上遺跡	(川辺町)	渡畑遺跡	(")
唐尾遺跡	(曾於市)		
西原遺跡	(")		
市ノ原3遺跡	(日置市)		
市ノ原4遺跡	(")		
向榕城跡	(")		
南摺ヶ浜遺跡	(指宿市)		



お知らせ
企画展
 Uenohara Jomon no Mori

上野原縄文の森展示館において、第18回企画展「新発見!かごしまの遺跡 2007」が平成19年4月末から開催されます。平成18年度の調査成果を、埋文だよりで紹介できなかった遺跡も含めて、速報で紹介する予定です。どうぞご期待ください。

効率的な報告書作成方法を研修

～技術研修講座(上級)を実施～



2月1日、2日の2日間、県内の28市町の埋蔵文化財担当者37名が参加して、『効率的な報告書作成』をテーマに技術研修講座を実施しました。

1日目は、奈良文化財研究所の深澤芳樹上席研究員による「報告書作成の理念と技術」についての講演と報告書作成における編集・校正の実践例の報告などを行い、2日目はそれについての質疑応答・討論を行いました。その後、第2のテーマ『県内の遺跡の発掘調査成果の報告』では、調査方法や記録の取り方などについても話し合われました。

新たなセンターの活用方法

昨年(さくねん)の10月4日に、鹿屋市立市成中学校(かのや しりついちなり)1年生22名が「総合的な学習の時間」を使って、調べ学習(しらべがく)に訪れました。限られた時間で、より多くの業務(ぎょうむ)を体験(たいけん)してもらうために、次の5つの学習コースを設定し、グループごとに15分ずつ体験してもらいました。

- 見えない文字(みえないもじ)を読み取ろう！
- 土器(どき)に機械(きがい)を使って注記(ちゅうき)しよう！
- 大判(おおばん)カメラ(かめら)で撮影(さつえい)して現像(げんそう)してみよう！
- 手の平(てのひら)の形(かたち)を実測(じつそく)道具(どうぐ)で写し取(うつ)ろう！
- 縄文(じょうもん)の森(もり)ホームページ(ホームページ)にアクセス(アクセス)しよう！

実際に写真(じっさい)を焼き付け(やきつけ)たり、肉眼(がん)では見ることのできない文字(もじ)を赤外線(せきがいせん)テレビカメラ(テレビカメラ)で見たりすることは、生徒(せいと)にとって初めて(はじめて)の体験(たいけん)で、驚き(おどろ)や感動(かんとく)することが多かったようです。当センター(とうせんたー)には、このような活用方法(かつようほうほう)もありますので、ぜひ相談(そうだん)してください。



テレビ会議で埋蔵文化財を学ぶ！



昨年(さくねん)の10月5日に、「ITを活用(いか)した遠隔教育(えんかくきょういく)システム実践研究(じっせん)」の一つとして、肝付町立川上(かみつき)中学校(ちゅうがっこう)とテレビ会議システム(テレビ会議システム)を使った授業(じゅぎょう)が行われ(か)ました。当日(とうじつ)は、センター(センター)と学校(がっこう)をインターネット回線(かいせん)でつなぎ、土器(どき)・石器(せきぎ)の説明(せつめい)や当センター(とうせんたー)の仕事内容(しごと)などを紹介(しょうかい)しました。また、生徒(せいと)からは、上野原遺跡(うのの はら)や縄文時代(じょうもん)に関する多くの質問(しつもん)がありました。10月20日(じゅうがつにじゅうにち)に実施(じっし)された上野原縄文(うのの はら)の森(もり)への一日遠足(いちにち)の事前学習(じぜんがく)としても役立(やくだて)ててもらえたようです。

ポイント 埋文豆知識 ③

落とし穴ってなあに？

発掘調査で見つかる遺構の中には、落とし穴と考えられるものがあります。一口に落とし穴といっても、形やその配置もさまざまです。そこで、今回は落とし穴について紹介します。



1 何のために作ったの？

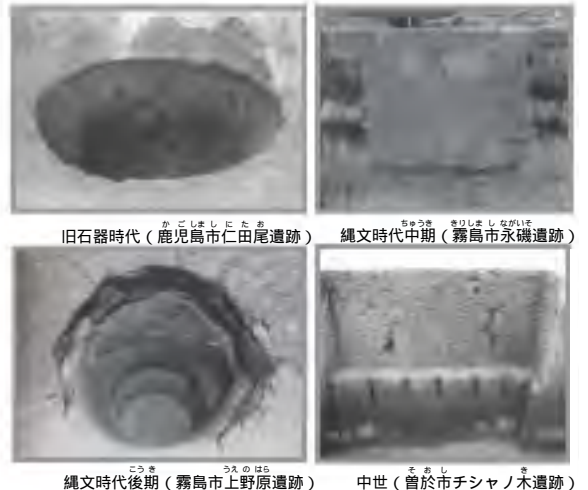
落とし穴は、動物を捕獲するために作られました。昔の人びとは、イノシシやシカの通り道（けもの道）に落とし穴を作って、狩りをしていたと考えられています。

2 いつ頃から作られているの？

落とし穴は、旧石器時代から作られていたことがわかっています。

これまで、日本最古の落とし穴は、静岡県で見つかった約2万7千年前のものですが、最近、中種子町大津保畑遺跡で約3万年以上前のものが見つかりました。現在、県内で見ついている約350基の落とし穴は、ほとんどが縄文時代のもですが、旧石器時代や古代・中世のものも少数見ついています。

今後の調査で、弥生時代や古墳時代の落とし穴も見つかるかもしれません。



旧石器時代（鹿児島市仁尾遺跡）

縄文時代中期（霧島市永磯遺跡）

縄文時代後期（霧島市上野原遺跡）

中世（曾於市チシャノ木遺跡）

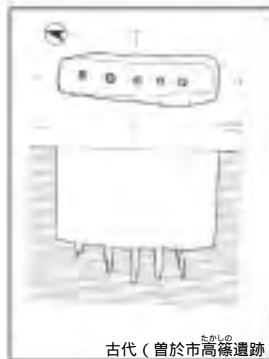
3 落とし穴ってどんな形？



旧石器時代（鹿児島市竹ノ山遺跡）



縄文時代中期（霧島市永磯遺跡）



古代（曾於市高篠遺跡）

これまでに県内で見つかった落とし穴の形は、大きく円形・楕円形・長方形の3つに分けることができます。

時代ごとにみると、旧石器時代は円形や楕円形が多く、縄文時代はすべての形が見られ、古代では長方形のものが知られています。



逆茂木のあとがある落とし穴（曾於市関山遺跡）

これらの落とし穴の中には、落ちた動物が簡単に逃げられないように杭（逆茂木）を穴の底に挿していたあとが見つかることもあります。また、落とし穴が規則的に並んで見つかることがありますが、これは動物を追い込んでより確実に捕獲するためと考えられています。



並べて作られた落とし穴（霧島市上野原遺跡）

こ ふん じ だい しょ とう
古 墳時代初頭の
 のう ぐ
農具が見つかる!!

みなみ きん ぼう
南さつま市金峰町
 みなみ した い せき
南下遺跡

国道270号改良工事に伴い発掘調査が行われた南下遺跡で、古墳時代初頭（約1700年前）の木製の鋤と柄がセットで2組見つかりました。この鋤の発見で、この一帯は、古墳時代から水田として利用されていた可能性が高まりました。



一般的な山鋤(上)との大きさを比較



柄に装着された状態の鋤（印の部分が、ほぞ穴）

げん ち せつ めい かい
現 地説明会を
 けん みる しゅう かん じっ し
県民週間に実施

かの や はな おか ね ぎ はら
鹿屋市花岡町 根木原遺跡
 そ お おお すみ かり また
曾於市大隅町 狩俣遺跡

地域が育む「かごしまの教育」県民週間にあたり、10月28日に根木原遺跡、11月4日に狩俣遺跡で現地説明会を実施しました。どちらの遺跡も天候に恵まれ、合わせて327名の見学者がありました。根木原遺跡では、平成9年から



集石の説明(根木原遺跡)

10年間の発掘調査で出土した土器や石器などと本年度の調査で発見された縄文時代の集石などを公開しました。



敵跡の説明(狩俣遺跡)

狩俣遺跡では、約230年前の桜島の火山灰に覆われた畑の敵跡などを公開しました。また、遺跡の見学のほかに発掘体験や火起こし体験が行われ、見学者は有意義な一日が過ごせたようです。

縄文の森 第17回企画展に伴う
講演会のご案内

日時 平成19年3月17日(土) 13時30分～
 場所 上野原縄文の森展示館多目的ルーム
 内容 三角山遺跡について(中村和美文化財主事)
 その他 定員100名 講演終了後、講師が企画展示について解説を行います。

埋文だより 第43号

発行日 平成19年2月16日
 編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
 〒899-4318 鹿児島県霧島市
 国分上野原縄文の森2番1号

TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820

E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp